

# 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習過程の工夫 ～見方・考え方を働かせた授業づくりを通して～

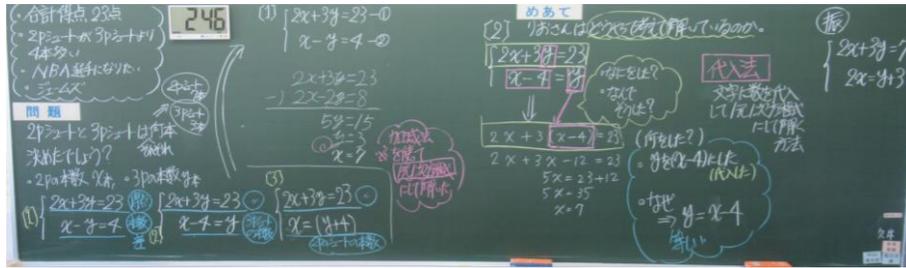
四万十市立中村中学校  
校内研修だより  
NO. 2  
2022.6.14

今年度も東京学芸大学学長補佐であられる西村圭一先生に校内研の持ち方についてご教示頂いたり、数学科の授業についてご助言を頂いたりする機会を年に数回設けることができました。今年度、第1回目の校内授業研究会は数学科の実践をもとに行われましたが、西村先生には授業や授業後の協議を参観して頂いた後、これからの校内研の方向性や授業の省察についてお話しいただきました。教育長や教育委員会の指導主事、西部教育事務所の指導主事の方々にもご参加いただきました。

東京学芸大学学長補佐 西村圭一先生の講話より

- 中村中の生徒の課題は何ですか？  
どの学校にも学習面と生活面の課題があり、学習面の課題は教科によって異なるので抽象的になりやすいが、中村中はこの面についてしっかり議論しているところが特長。この課題に対する研究主題であると良い。
- 校内研の持ち方について  
授業研究ワークショップ（指導案⇒対話⇒授業観察⇒対話）の最後は、個々の先生方が自分との対話に落とすこと。他教科の授業をみて、自分の授業のレベルアップにつながるような校内研の仕組みをつくるのが大切。
- 授業を参観するときは・・・  
生徒目線で授業をみる。生徒の実態に応じた指導ができているか、本時の目標は生徒が目指しているものか。その視点で教材をもう少し練ってみると良い。
- 個々の生徒に応じた指導について  
個別最適化は水平的(方法を選択させる)側面と垂直的(スピードをコントロールする、自由に取り組みせる)側面に分けて考えることもできる。いつ、どんな場面で、位置づけると妥当か考える。
- 対話について  
教師と生徒間にwin-winの法則が成り立つようにする。知恵を合わせていくプロセスで「対話」が生まれる。発言させるための発問や意図的指名など教師の腕の見せ所になる場面。

【本時の目標】  
連立二元一次方程式を解くために、一元一次方程式に帰着させる方法(文字を消去する方法)を新たに発見することができる。



グループ協議からの発表

- 松岡先生が授業内容について深く理解していることや生徒をよく把握できている点などが素晴らしかった。振り返りに課した問題も、本時の評価規準をみとれる問題であったと思う。
- 新たな解き方を見いだすために、既習の解き方ばかりで解決していることに疑問を抱くような授業展開が良かった。友達がどのように解決しているか考える時間に、「なんで？」という声が飛び交っており、いろいろな場所で生徒どうしが真剣に考える姿がみられた。理解度の差にどう対応するかが課題。代入法のよさを実感させるような授業ができれば...
- 連立方程式を加減法で解いた後に、他の考え方を提示し「なにをしたのか」「なぜそうしたのか」と視点を絞って考えさせていたことが良かった。振り返りの問題で、代入する式を間違えていた生徒が一定数いた。【3】の式を振り返りにしていれば、事象に戻って式の意味を考えさせることができただかも。
- 代入法を用いて連立方程式を解いた生徒以外の生徒が「代入した」と発言していた。この生徒は見いだしたと評価できるのでは？目標にあった「見いだす」というのは曖昧な表現。指導案検討の際、生徒の具体的な姿まで落とせるよう今一度確かめていく。



## 参観者の感想より

- 思考する際に着目する視点を明確に示すことで、生徒は教科の見方・考え方を働かせることができると分かった。生徒への示し方を真似したい。生徒が1時間の授業で目指すゴールが明確になるようにする。
- 発問の工夫の仕方をもっと考えようと思った。まとめ・振り返りを行う際に、今日やったことを振り返るのも大切だが、余韻のある授業の終わり方もとても面白く、次の授業の導入にもややもやした気持ちをつなげて、発展していくのも重要だなと感じた。

## 【今回の授業研での学び・確認】

### 授業づくりのポイント

- ・ 生徒の実態に応じた指導や手立て、目標になっているか。
- ・ どう評価するか。(活動？ノートの記述？評価問題？)  
その為に、評価したい生徒の姿を具体的に、明確に。